
負けないで！

秋鹿 袖玖

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

負けないで！

【Nコード】

N1316S

【作者名】

秋鹿 柚玖

【あらすじ】

強豪チームとの試合。ゲームは8回裏。焦燥感にかられるキャプテンに向かって彼女は叫んだ。 そんな青春真っ盛りな一場面です。ZARDの『負けないで』を聞いて頭に浮かんだ風景を文字にしてみました。あの歌を聞くとやる気が湧いてきますよね！

(前書き)

それぞれが大変な今の世の中。その中でひたむきに頑張っている人がいる。遠い地でニュースを見守るしかできない私でも思いを形にすることができたら……。思いやりは誰にでも見えるそうです。そういう人でありたいと思います。

自転車のブレーキを踏まず、全速力でなだらかな坂を下った。緩い傾斜でも勢いがつくと、絶叫マシーン並みのスピードだ。頬を叩く風に思わず、目を細める。

でもこの感覚、やめられないな。

爽快感に思わず頬が緩んでしまう。

頬は風を受けて小刻みに揺れ、妙な感じだ。

心地よい風に逆らいながら、自転車は更にスピードを増す。

その所為で淡い水色の空も、眩い陽光も、萌えるような緑もあつという間に遠ざかり、鮮やかな残像となった。

やっと咲き始めた薄紅色が時折その中に混じってみえる。

3

坂の終わりにさしかかり、平坦な道に変わる。

慣性の法則に従って行けるところまで自転車に任せた。

徐々に弱まるスピードに見切りをつけ、今まで休憩中だった足に力を入れる。

右、左と両足に力を入れ全速力で漕ぐが、これじゃまだ足りない。

サドルから腰を浮かすと、前屈みになり更にスピードを上げる。

その勢いに乗って、紺色のスカートがめくりあがった。

でも足を止める訳には行かない。

この心の高まりを押さえるにはもっと激しい風が必要だから。

目指すは市民球場。

試合はもう、開始時間から1時間は過ぎている。
ゲームは後半にさしかかっているだろう。

思いもしない強豪チームとの試合。

草野球に毛が生えた弱小高校野球にとっては、試合ができるだけでも有り難いチームだ。

接戦するなど恐れ多い。

勝利するなど夢また夢のこと。

でも……。

やっと見えてきた市民球場のグラウンドの間近まで自転車で突っ込む。

緑のフェンスの向こうにある一塁ベンチに見えるのは見慣れた長身のスポーツ刈。

その表情にいつもの穏やかさはない。

彼の顔からゲーム展開は見てとれる。

自転車を乗り捨てるように芝生の上に転がすと、自転車のスピードに乗って駆け出した。

フェンスにぶつかると、春の陽気をめいっぱい吸い込む。

「負けんな！」

相手チームの吹奏楽の応援に負けじと声が響いた。

驚いたように振り向く彼。

「負けんな！そんな負けそうな顔すんな！まだ試合は終わってない！」

彼の目が見開かれた。

「試合はこれからでしょ？8回は勝負の回なんでしょ？自分たちらしいゲームをするって、試合前のミーティングで言ってたじゃない！なのに発言したアンタがそんな顔するな！最後まで、いつも通りに笑っていてよ！」

息継ぎなしで、叫び続けるのも限界がある。

はあはあと息を切らしながらも目は彼から逸らさない。

感情が高ぶって泣きそうだ。

その潤んだ瞳に、彼の眩い笑顔が映った。

こちらを指差し一言。

「逆転満塁ホームランだ」

ニヤリと歪む口の端で白い歯がきらめいた。

「そこで見てろよ。オレの勇姿」

背を向けると彼は帽子のツバを掴み、何かを確かめるように深く帽子を被った。

その視線の先に広がるのは日の光を受けるグラウンド。

そして白いホームベース。

試合は8回裏。

点数差は10点。

追いかけるには遅すぎる？

いいえ。

最後まで何があるか分からないのが勝負の世界。
だから諦めないで、立ち向かって。

最後まで夢という名前の白いボールを追いかけて。

彼の背を見つめる。

ホームベースでバットを握る仲間を熱く見守る彼の背を。

彼の宣言通り、試合はツーアウト満塁。

そして彼の番。

彼はもう一度ツバを握り、帽子を被り直すところらに視線を送った。

その視線に応えるようにとおき笑顔を浮かべた。

本当は心臓が飛び出そうなほど緊張している。

でもそんなことは絶対に気づかせない。

自信満々の笑顔で彼を送り出すと、祈るように手を握りしめた。

負けないで！最後まで笑っていて。わたしはずっとあなたの味方だから！。

(後書き)

読んで下つてありがとうございました。考えのまとまらない中でただ頭に浮かんだ風景を描きました。自己満足？いつものコトですが。……でも遠く東の地で頑張る人々に私も叫びたい。負けないでと。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1316s/>

負けないで！

2011年6月19日08時46分発行